■金子文子　　無政府主義者。先輩同志の朝鮮人の情婦となり，震災時の迫害で，悲劇的最期を遂げた。
かねこふみこ
日比谷公園・1903＝　　横浜で，佐伯文一の子に生まれる。母は金子とくの。ふみ子とも書く。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

女道楽激しい父の姿を見て育ち，

韓国併合・・1910＝ 7歳：父と生別，母は別の男と同居。出生届がなく学校にも行けず，
大逆事件判決1911＝ 8歳：母の再婚先に行が，叔父に引き取られ，母方の祖父金子富太郎の養子となり，
明治天皇没・1912＝ 9歳：**_朝鮮にいた父方の伯母に引き取られ，渡鮮し養子となるが，**

_伯母の虐待に耐えかね，何度も自殺を図る。

高等小学校卒業後，

ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝16歳：**_独立運動を目撃して感動。内地の母の実家に戻るも，母は相変わらず男遍歴，親類方を彷徨ったあげく，**
大暴落・・・1920＝17歳：**_単身上京。新聞売子や露天商をやりながら，正則英語学校・研数学館に通うなど，苦学するうち，**
原敬首相暗殺1921＝18歳：***朝鮮出身の無政府主義者グループの仲間となり，**
水平社結成・1922＝19歳：***民族主義アナーキスト朴烈と出会い，情婦となり同棲。二人で運動紙{太い鮮人}発行。**
関東大震災・1923＝20歳：***{不逞社}を組織し，さらに運動を拡大。関東大震災の"朝鮮人暴動"のデマの中，朴烈とともに検挙され，政府当局は夫妻を架空の"暴動"の黒幕的存在に仕立てるため，2人を犯人にでっち上げた。**

円本時代始・1926＝23歳：**_2人は死刑の宣告をうけ，無期懲役に減刑。文子は栃木女囚刑務所に収監される。監房で縊死した。**
東京市谷刑務所入所中に書いた獄中手記「何が私をかうさせたか」(昭和6年発表)がある。"これ見よと言はんばかりの有名な女にならんと思いしことあり"という歌を残す。このころ烈・文子が抱き合った「怪写真」が公開され政治問題となる。朴烈は昭和20年(1945)釈放，北朝鮮に渡り在北平和統一促進協議会会長として活躍，同49年に死没。文子の墓は朴烈の生地慶尚北道聞慶郡麻城面の山奥に粗末に作られ，1人だけで眠っている。

平凡社百科事典，「女たちの20世紀･100人」，「日本の女性」，インターネット，